

中学校社会科歴史的分野における民衆史活用の意義

－「奈良時代の農民の暮らしを再検討しよう」の授業を手がかりに－

小 栗 英 樹

1 はじめに

歴史上の民衆の暮らしについて、生徒は「民衆の暮らしは苦しそうだ」「民衆は悲惨」という。生徒は、縄文時代は差別のないおおらかな時代とイメージしており、身分が生まれた弥生時代以後、一貫して民衆の生活は苦しいと考えている。民衆は支配される側であり、支配者による収奪に苦しみ続けていたイメージである。たしかに、楽な生活をしていただけてはいないだろうが、あまりにも一面的な歴史のとらえ方ではないか。

選択社会科の授業で、「人々の楽しみを探そう」をテーマに調べ学習をしたことがある。江戸時代の町人の旅行や年中行事などの楽しみがあったことを知った生徒は、「つらいばかりだと思っていた庶民の暮らしにも楽しいことがあったことが分かった」と感想を述べた。「つらいことばかり」と「楽しいこともあった」では大きな違いがある。庶民の暮らしの楽しさを知ることによって、江戸時代についてより正確に理解できるようになったといえる。

日頃の授業実践から、民衆史について以下のような仮説をもっている。

- ・民衆の生活の様子を含めた時代像が把握できていないのではないか。たとえば、織田信長の時代を学習しても、登場するのは信長だけで、それ以外の、同時代に生きた人々について十分に意識していないのではないか。
- ・民衆のイメージは、江戸時代の民衆、とくに農民のイメージではないか。どの時代を学習していても生徒の発言の中に「年貢」「百姓一揆」「水呑」等の言葉が聞かれる。
- ・古代から現代へと、民衆の生活は徐々に豊かに、幸せになってきている、技術も高まってきていると考えているのではないか。したがって、時代をさかのぼるほど、貧しく、悲惨な生活をしていたと考えているのではないか。
- ・民衆とは農民のことと考えているのではないか。漁民や猟民などは意識されていないのではないか。
- ・民衆の生活も時代区分によって変化していると感じているのではないか。
- ・現在のように生活スタイルが似通っていたわけではなく、全国津々浦々だったが、人々の生活の多様性は理解していないだろう。
- ・そもそも民衆についてほとんど知らないのではないか。それぞれの時代の民衆の喜怒哀楽を指摘することはできないだろう。

民衆史を学習することによって、中学校社会科・歴史的分野の授業を動的で楽しいものにし、歴史認識を深めるとともに、生徒の民衆史に関する実態を逆に利用して批判的思考を育成できないかと考えた。以上について奈良時代の農民の生活に関する教材を開発し、授業を実践することをおして検証してみたい。

2 民衆史に関する教科書の記述分析

奈良時代の農民のくらしに関する本文の記述と、掲載している資料について、小学校の教科書1社および中学校の教科書7社を調査した。資料1を参照していただきたい。

小学校の教科書からは、「(運脚の) とちゅうでなくなることもありました」という文章や、うつむきがちに荷を運ぶ農民のイラストから、「重い負担により苦しいくらしを強いられた農民」像が読み取れる。中学校入学時に、生徒が右のようなイメージを奈良時代に対して抱いているのは、こうした記述やイラストが影響を与えていると考えられる。

中学校の教科書では、いずれも、租・庸・調などを農民が負担していたこと、それらの負担が重く、農民のくらしが苦しかったことが書かれている。「農民のくらしは苦しかった」と記述している教科書があるほか、律令制度下の負担については、すべての教科書で「重い」「きびしい」と表現されている。また、本文以外に掲載されている資料は、貴族と農民の生活を対比した家や食事、



学習前の生徒がもっている奈良時代のイメージ

「貧窮問答歌」や防人の歌のような農民の生活の悲哀を記した歌などである。これらはいずれも、重い負担に苦しむ農民を強く印象づける資料といえる。中学生も、教科書を中心に学習すれば、奈良時代の農民について「苦しそうだ」「悲惨だ」という一面的なイメージを抱くに違いない。

3 民衆史を活用した授業「奈良時代の農民のくらしを再検討してみよう」の意図と概要

(1) 授業のねらい

第1に歴史を主体的に考えることの楽しさを味わわせる。歴史の学習は過去のできごとを知るものであり、ややもするとそれを暗記すればよい、という学習観をもつ生徒もいる。生徒が歴史を主体的に考えること、言いかえると、主体的な歴史認識をつくることは歴史学習の楽しみの一つ「歴史の本当の姿を知りたい」を満足させるとともに、歴史学習にやりがいを感じるであろう。加藤公明や安井俊夫の歴史授業の実践に見られるように、史料の周辺の歴史的事象を調べ、史料を生徒自身が論理的に解釈し、歴史的事象を説明し直す授業は、生徒の想像をかき立てる。歴史を主体的に考えさせる教材として、奈良時代の農民のくらしを再検討することは適している。なぜなら、事前調査の結果から、ほとんどの生徒がまったく奈良時代の農民について知識をもっていないからである。

第2に、批判的思考力を育成していくことをねらいとして本授業を計画した。批判的思考とは critical thinking の訳語である。批判的思考は、「日常語である『相手を批判する』思考とは限らない。むしろ自分の推論過程を意識的に吟味する反省的思考であり、何を信じ、主張し、

行動するか決定に焦点をあてる思考」^{＊1}である。すなわち、歴史的分野においては、教科書などに書かれている記述を鵜呑みにするのではなく、多くの資料（とくに原典）にあたり、記述内容を吟味し、実証的に歴史を学習することをさす。史料を主体的に分析する学習を通して「教科書等の記述を鵜呑みにするのではなく、疑ってみて、自分で考える必要がある」といった認識を持たせるとともに、批判的思考力を高めたい。批判的思考を育成することはよい市民を育てることと関連しており、社会科の目標とも合致する。また、歴史を学習する主体者としての楽しみを味わうことにもつながると考える。

（２）教材の開発

上記二つの授業のねらいを達成するため、奈良時代の農民のくらしに関する史料を探した。生徒は、「奈良時代の農民のくらしは苦しい」と考えているので、奈良時代の農民が苦しい生活をしてきたことを覆す資料、奈良時代の農民は苦しくなかったかもしれないと想像できる史料が必要である。しかも、生徒が自分で解釈する余地が残されている史料が適している。

○貧窮問答歌「山上憶良は現実の農民の姿を見て「貧窮問答歌」を作ったのではない」

- ・貧窮問答歌を作ったとき（732年、73歳）の山上憶良のくらしぶり
「憶良は筑前守をやめてからも、班田農民男子一人の約40倍に該当する位田（朝廷から与えられた田）八町（100m×800m）があったことや、絁四屯・綿四屯・布二九端・庸布一八〇常などの収入があった…」（渡辺守順『万葉集の時代』 ニュートンプレス 1978年 p.193）
- ・「憶良は遣唐使の一員となったこともあり、晩年には大陸との交易の窓口である北九州の筑前国に国司として赴任したから、最新の漢籍（大陸の書物）を入手できる立場にあった。」
- ・「敦煌で発見された『王梵志詩集』^{おうぼんし}の写本中に、貧窮問答歌といってよいほどそっくりな漢詩がある。」

※王梵志…7世紀の唐の人。その詩集が日本に伝わっていたことは『日本国見在所目録』から明らか。

- ・「当時は、3世代同居ではなく、子どもができると夫婦が独立して家を構えるのが普通だった。むしろ、男性の両親と妻と一緒に暮らす形態は当時の中国に見られた結婚形態。」

（吉田孝『飛鳥・奈良時代（日本の歴史【2】）』 岩波書店 1999年 p.132-140）

（渡辺守順『万葉集の時代』 ニュートンプレス 1978年 p.193）

（義江明子『「貧窮問答歌」は事実をみて書かれたか』 歴史教育者協議会編『一〇〇問一〇〇答・日本の歴史』 河出書房 1988年 p.50-53）

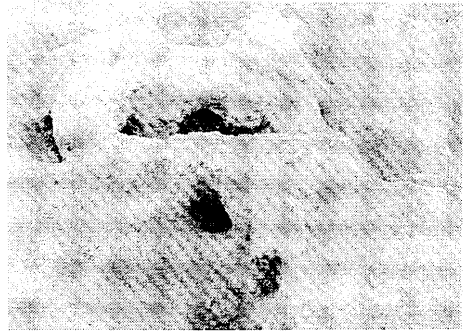
○農業に関すること

- ・「水稻のほかに、麦・粟・ひえ・キビ・豆類などの畑作も行われていました。律令政府は霊亀元年（715年）と養老6年（722年）の二度、麦や粟などの畑で作る雑穀の栽培を奨励しています。」 栃木県教育委員会『古代の集落—しもつけのムラとその生活—』 1995年 p.12.
- ・奈良時代にすでに牛馬耕が行われていた。

（大塚初重他編『考古学による日本歴史2 産業Ⅰ 狩猟・漁業・農業』1996年 雄山閣出版 p.64）

＊1 「市川伸一編『認知心理学4 思考』東京大学出版会 1996年 p.53」より引用。

- ・鉄製の農具が広く普及するようになり、耕地が拡大した。
- ・県内の遺跡からたくさんの砥石が出土している。これは鉄製農具存在の証拠となる。
- ・鍛冶屋が集落の中にいた（右図）



多功南原遺跡で見つかった鍛冶場跡

○農民のくらし

- ・「また、農耕以外にも、副食物をえるために狩猟や漁労も行われていて、鉄鏃やたも、土錘（魚を捕る網のおもり）などが出土しています。金山遺跡（小山市）では脂肪酸分析によって鳥獣類や野菜類を副食物とし、穀物類を主食としていたことが明らかになっています。」

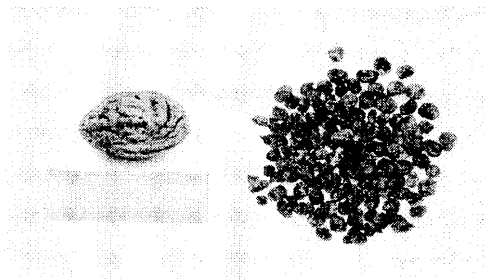
（栃木県教育委員会『古代の集落－しもつけのムラとその生活－』 1995年 p.12）

- ・多功南原遺跡からは、右のようにたくさんの種類の土器が発見されている。一汁一菜の食事であればこれほどの種類の土器が必要だったか。想像されている食事以上のものを食べていたのではないか、と考えられる。



多功南原遺跡から発見された土器

- ・「米はかまどに据えられた^{こしき}甑で蒸して食べられていました。また、米は雑穀やイモ、野菜などいっしょに煮て粥として食べることもありました。多功南原遺跡（上三川町）からは、桃や梅の種も出土しています。」
- ・奈良時代の農民がくらしていた竪穴住居に関して「竪穴住居は夏は風通しがよく涼しく、逆に冬は床面に敷物を敷いたため温かったようです」



多功南原遺跡から発見された桃の種と大豆

（栃木県教育委員会『古代の集落－しもつけのムラとその生活－』 1995年 p.13）

- ・「春には豊作祈願の祭り、秋には収穫祭が村人総出で行われました。」
- （栃木県教育委員会『古代の集落－しもつけのムラとその生活－』 1995年 p.12）
- ・「装身具としての櫛や履き物としての下駄が各地で出土しています。」（右図）
- （栃木県教育委員会『古代の集落－しもつけのムラとその生活－』 1995年 p.13）

○記録に見られる奈良時代の農民のようす

- ・『万葉集』…下野の農民の歌
しもつけのみかも こなら ぐわ こ た も
下毛野美可毛の山の小櫛のす ま 麗し児ろは誰がけか持たむ

歌意…みかも山の檜の木若葉のように美しい乙女は誰の食器を手にするようになるのだろうか（誰と結婚するのだろうか）。

（栃木県教育委員会『ふるさと栃木県の歩み』 1986年 ぎょうせい p.87.）

- ・『常陸国風土記』…筑波山の歌垣（※「かがい」とも読む）

「…富士の山はいつも雪が降り積もっていて人は登ることができず、一方、この筑波の山は人々が往き集い、歌ったり、踊ったりし、また、食べたり飲んだりして、今に至るまでそれが絶えないのであると。」

「箱根から東にある諸国の男女は、春の花が咲く時期、秋の木々の葉が色づく時期になると、手を取りあって連れだち、食べ物や飲み物を持って、馬に乗ったり歩いたりして筑波山に登り、一日中楽しく遊び過ごす。」

（秋本吉徳『常陸国風土記』 2001年 講談社 p.27. および p.32）

- ・『続日本紀』

「772年10月 下野国の農民が調・庸・雑徭から逃れようとして870人が逃亡」

（宇治谷孟『続日本紀（下）』 1995年 講談社 p.100）

○流通に関すること

- ・井頭遺跡では東海地方で作られた陶器が発見されている（真岡市史）

以上より、まず、学ぶ楽しさを実感させ、主体的な学びを促すために、ゆさぶりを活用する。奈良時代の農民の暮らしについて、生徒は、本小単元学習以前に、「大変苦しい生活をしてい」と想像している。さらに、前時の律令制度の学習で農民の負担について学習し、貧窮問答歌を全員で読む。このため、生徒は「奈良時代の農民は、重い負担に苦しむ貧しい人々」「奈良時代の農民は重い負担に苦しみ、貧窮問答歌にうたわれたように貧しい生活を送っていた」と認識している。このような生徒に対して、「貧窮問答歌は当時の農民の暮らしをうたったものではない」ことを伝え、生徒の認識にゆさぶりをかけ、「律令制度下の農民の暮らしは実際どうだったのだろうか」と問いかけ、奈良時代の農民＝貧民という理解の再検討を迫る。

次に、生徒が奈良時代の農民の暮らしを再検討する資料として下の四つを選んだ。

- ・多功南原遺跡から見つかった桃の種と大豆
- ・多功南原遺跡から見つかった櫛
- ・『常陸国風土記』の歌垣の記述
- ・『続日本紀』の農民逃亡の記述

これらを選んだ理由は、生徒が現在の自分たちの価値観や経験を生かして、さまざまな推論が可能であると判断したからである。また、桃の種や櫛は多功南原遺跡から見つかったという情報しかなく、一般化するのは無理があること、『風土記』や『続日本紀』の記述の信頼性など、批判的思考を育成する上で有効な資料であると考えたからである。史料を解釈し、歴史的事象を説明している文章は、今回の教材として適していない。生徒が自分で解釈する余地を見つけないと考えると考えたからである。

（3）「奈良時代の農民の暮らしを再検討してみよう」の指導

以下に指導案を示す。なお、この授業は平成16年6月21日第2時限に宇都宮大学教育学部附属中学校1年3組（男子20人、女子20人、計40人）で実施した。

（「奈良時代の農民の暮らしを再検討してみよう」授業案）

- （1）題目 「奈良時代の農民の暮らしを再検討してみよう」
- （2）目標 奈良時代の農民の暮らしについてさまざまな資料を読みとり、それを生かして当時の人々の暮らしむきを合理的に想像できる。（社会的事象に対する思考・判断）

(3) 指導方針

最初に、「貧窮問答歌」にゆさぶりをかけ、授業内容に対して関心をもたせたい。続いて三つの資料から、奈良時代の農民の生活について生徒にとって新たな発見をさせ、その解釈を学級全体で意見を出し合って検討し、それらの情報から奈良時代の農民観の変容を図りたい。話し合いでは、合理的な想像、論拠のある想像をさせることに心がけ、また、主体的に歴史を再検討していこうとする態度を励ましていきたい。こうした学習活動を通して、第1に歴史を主体的に考えることの楽しさを味わわせること、第2に、批判的思考を育成していくことをねらいとして本授業を計画した。

(4) 展開

学 習 活 動 ・ 内 容	資料・準備	指 導 上 の 留 意 点
<p>1 前時に学習した律令制度下の農民の負担および貧窮問答歌を確認し、奈良時代の農民の苦しみについて再認識する。</p> <p>租・調・庸、雑徭、仕丁、兵役、出挙</p>	<p>貧窮問答歌 (掲示用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動4で、奈良時代の農民のくらしを判断する論拠となることがらなのでていねいに復習する。 ・律令制度下の農民の重い負担を理解させるとともに、その悲惨さが貧窮問答歌に歌われていることを確認させる。
<p>2 貧窮問答歌について、教師の説明を聞く</p> <p>貧窮問答歌は農民の姿をうたったものではない！ ①唐の王梵志の詩に類似 ②内容が当時の日本の家族のあり方と矛盾</p>	<p>貧窮問答歌 (掲示用)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・貧窮問答歌に歌われている様子が奈良時代の農民のくらしの様子だと信じられてきたことを伝え、ゆさぶりを大きくしたい。
<p>3 本時の学習課題を確認する。</p> <p>奈良時代の農民のくらしを再検討してみよう</p>	<p>ワークシート</p>	
<p>4 奈良時代の人々のくらしについて資料を下の三つの資料をもとに再検討する。</p> <p>(1)多功南原遺跡(栃木県上三川町)から発見された桃の種と大豆 (2)多功南原遺跡(栃木県上三川町)から発見された櫛 (3)『常陸国風土記』における「歌垣」に関する記述 (4)続日本紀の記述「772年10月下野国の農民が調・庸・雑徭から逃れようとして870人が逃亡」をどう解釈するか。</p>	<p>ワークシート 生徒作品「○○の移り変わりを調べてみよう」 液晶プロジェクター 映像資料 ・多功南原遺跡出土の桃の種 ・木製の櫛 掲示資料 常陸国風土記より「歌垣」に関する記述</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの資料について、全体で十分に検討を加えていきたい。そのために教師は積極的に補助質問をしていくようにする。 ・写真資料等を生徒に読みとらせる活動をととして、奈良時代の農民のくらしを再検討する材料を提示する。 ・歴史導入単元「○○の移り変わりを調べてみよう」で調べたことのうち、本時の課題に関係する情報を発表させ、活用する。他クラスの作品に有効な情報があれば教師が紹介する。 ・比較の視点を明らかにしながら再検討をすすめたい ①今の自分たちの生活との比較 ②前時代との比較 ③他の身分や階級との比較
<p>5 ワークシートに「今日の授業でわかったこと・感じたこと・新たに生まれた疑問」を記入する。</p>		

4 民衆史を活用した授業「奈良時代の農民の暮らしを再検討してみよう」の実際

資料2「奈良時代の農民の暮らしを再検討してみよう」授業記録を参照していただきたい。

次に生徒作品を示す。まず、授業で実施できなかった「下野農民870人の逃亡をどう考える？」について、以下に典型的な作品を抜き出した。

- ア) 逃亡者は私の考えだと、やはりあの重い税がはらえなくなってしまい逃亡をしたと思える。ということは、農民にとって負担だったということである。私の想像では毎日里長などが来てつらかったと思う。でも、山などに行けば、山の恵みがあるので、何とか生きていけるし、里長なども来ないのでいいと思う。無事に逃げてほしいなと思った。
- イ) 逃亡者は税などの取り立てが厳しくて、つらかったから逃げたのだと思う。→さぼるな！後に残る人のことも考えろ！
- ウ) 逃亡が多いのはやはり税が苦しいからだと思うが、農民が逃げたのは余裕があるうちだったと思う。
- エ) 逃亡するためにはお金や食料もかなり必要だろう。これには計画があったに違いない。ということは海草みたいな服装をするほど貧しくはなかったのではないか。
- オ) 税を出すよゆうはあった。でも面倒くさくなって逃げた。
- カ) 772年にききんや増税など、何かあったのではないか。または、役人たちの手の届かないところにげ、楽な暮らしをしようとした。
- キ) 奈良時代の農民のくらはしは、貧しい・苦しい生活を本当にしていたのかなと考えた。実は、貴族の人たちにおとらないくらいの生活をしていたかもしれない。でも、それは日本全国じゃなくて地方ごとにちがっているんじゃないかと考えた。
- ク) にげるほど何かつらいことがあってそれからのがれたかったから？それとも村のみんなをさそって税のかからないところをめざした？
- ケ) 新しく税を課せられたのかもしれない。不作だったため米をとった後すぐ逃げた？

また、「今日の授業でわかったこと・感じたこと・新たに生まれた疑問」として次のような記述が見られた。

- a) 今に生まれてよかった！今の税より苦しい税がたくさんあって、私は大食いだからきっと死んでいたかも（ぜいたくだし・・・）。このころの人は頭いいなあと感心した。
- b) すごく大変な生活だなあと思ってたけれど、ちゃんと考えて動いているなと思った。奈良時代の農民は、苦しい条件を出されても、頭を使って生活していた。
- c) 農民は里長や国司が思ったりしているよりかしこかった。自分で考えて、何とかしようとしていたことはえらいと思う。
- d) 今まで税の負担がきびしくて逃亡していたのかと思ったけど、本当は防人になるのがいやだったのかもしれないという新しい推測ができたのでよかった。
- e) 農民はずっとひどい思いをしていて、逃げる場所もないのかと思ってたけど、貴族のところや東北など、逃げられるところがあったということを知った。
- f) 奈良時代の農民は苦しかったが、逃げ道も用意されており、律令政治を無視することも可能だったと想像できる。

- g) 一つのことについて、いろいろな考え方ができるので、どれが本当なのかははっきりと分からないことが分かった。もし、貧窮問答歌も、風土記も事実だとすれば、農民の中でも、貴族と農民のようにわりと生活が楽な人ととても生活が苦しい人の二つにまた分けられるのでは？と思った。奈良時代の農民は税や防人になることがイヤなので貴族のもとにいたり蝦夷のもとに行くなどして反抗していた。
- h) いろいろな書物を見ると、たくさんの疑問が浮かんできた。だから昔の書物に書いてあることは信用性があまり高くないと思った。
- i) やっぱり歴史はうそとホントがまじっていると思う。昔の人は頭が良さそうだったのに、ずるいことしか考えていない感じだ。奈良時代の農民は負担がすごかったと考えられる。
- j) 逃亡することで負担を少なくするとは、農民は微妙に強いと思った。
- k) 農民の本当の歴史がすこしわからなくなったけど、すこしわかった(?)
- l) 奈良時代の農民のくらは、地方によってちがうかもしれないと思った。なぜかという、風土記は、地方によって書かれたものだから、地方によっては貧しい生活をしていたり、余裕のある生活をしていたかもしれないと思った。だからそこらへんのところを調べてみたいと思った。また、奈良時代の農民は先を考えて行動していたんだなあと思った。
- m) 奈良時代の農民は、思ったより余裕があって、何かと楽しみもあったと思う。
- n) 全部の遺跡で桃の種や大豆が見つかったわけではないから、もしかしたらそこだけ豊かなところだったのかもしれない。
- o) 当時の農民は天皇に忠誠を誓っていなかった？
- p) 農民は貧しいけれどもいろいろなことを考えて、自分たちや子孫のことを考えて逃亡したことが意外であった。それならば北九州の農民はどうだったのか疑問に思った。

5 民衆史を活用した授業「奈良時代の農民のくらしを再検討してみよう」の分析

(1) 楽しさの面から

授業の最初は、教師に指名されて発言する生徒が多かったが、後半になり、史料の解釈がはじまると、主体的に挙手して発言する生徒がどんどん増えた。自分の価値観から桃を豊かさの証とする生徒。これまで抱いていた農民観をにわかに転換せず、史料を疑ってみる生徒。最後には生徒相互の批判意見も出され、全体での検討は大いに盛り上がった。発表はなかったものの、ワークシートには全員の生徒が「下野農民870人の逃亡をどう考える？」について推論している。

生徒の作品から、a), b), c), e) に見られるように、生徒は、奈良時代の農民が自分たちの想像以上に頭を使って生活していたかもしれないと考えるようになった。これからは、奈良時代の農民の姿をイラストに描く場合でも、全員がうつむき、泣いていることはないに違いない。また、ア) やイ) のように、奈良時代の農民たちに心情移入する生徒もいた。歴史上著名な人物を扱わなくても「人物が登場する歴史授業」であったことを想像させるものである。歴史授業の楽しさを多くの生徒が経験できたのではないか。

(2) 批判的思考の面から

h) や i) のように、風土記などの史料自体の信憑性を疑問視する意見や、g), l), n) のように、奈良時代の農民をひとまとめにせず、その中に貧富の差がある、というように農民の社会の多様性を考える生徒などがいた。生徒にとって奈良時代の農民のくらしを再検討する過程は、説明に使用する史料自体を検討したり、これまでに自分が獲得している知識を活用して他生徒の意見を吟味するなど、有効な批判的思考の場となっていたことが分かる。

また、k) やケ) のように複数の推論をする生徒が多く見られた。複数の推論をしようとするのは批判的思考者のもつ傾向性（態度）の一つである。^{*1} 桃の種や櫛など三つの史料から奈良時代の農民のくらしを吟味することによって、「農民＝いつも泣いている貧民」という先入観が薄れ、自由な発想が生まれてきたことが想像される。さらに、他生徒の話をよく聞き、自分の意見作成に生かそうとしているのは批判的思考者の傾向性の一つである「開かれた心をもつ」につながる。これらのことから、本実践が批判的思考育成の有効な場となったことがいえる。

6 おわりに

本研究では、民衆史のうち、奈良時代の農民というごく限られた対象について授業を実践し、その可能性について考えたにすぎない。しかし、今回の実践から次のようなことが分かった。

- ・民衆史についてどの生徒の知識量も少なかった。貧窮問答歌に対するゆさぶりによって、生徒は自分の知識を再び安定したものにしようとして、自ら考え、自分の奈良時代の農民像を再検討しようとしていた。主体的に発言し、他者の発言をワークシートに主体的にメモし、それを生かして自分の意見を構築しようとしていた。生徒の既知の知識量に差がないこと、生徒が自分なりに解釈する余地が十分に残されている史料をもとに民衆の生活を吟味することが、楽しく考えさせる授業を成功させる要因であったと考えられる。
- ・奈良時代の農民のくらしを再検討する活動の中で、資料の出所や作者を確認（推論の基盤の検討）するなど、批判的思考の育成が可能なこと。

教材の開発は大変だが、生徒が批判的思考を十分に発揮し、歴史を学ぶ楽しみを経験するだけでなく、より複層的な時代像を描くことが可能となり、「覚えるだけの歴史」という授業観を変えることになるかもしれないことを考慮すると、他の時代でも民衆史を活用した授業を開発することは有意義であると考えられる。

授業の反省として、ワークシートに書かれた興味深い意見をみんなに聞かせることができなかったことが残念だった。1時間計画でなく、じっくり2時間かけてそれぞれの生徒の意見を全員でさらに吟味すれば、歴史学習の楽しさの体験、批判的思考の育成いずれにとっても有意義な時間となったであろう。

*1 市川伸一編『認知心理学4 思考』東京大学出版会 1996年 p. 53. 批判的思考者のもつ傾向性として (a) 明確な主張や理由を求めること (b) 信頼できる情報源を求めること (c) 状況全体を考慮する、重要な問題からずれないようにする (d) 複数の選択肢を探す (e) 開かれた心をもつ (f) 証拠や理由に立脚した立場をとる、の6点が指摘されている。

資料1 「奈良時代の農民の暮らし」に関する教科書分析

	教科書の本文の記述	記述に関連する資料
小学校 A社	<p>・「農民を、工事のときに労働させたり、兵士として都の警備につかせたりするという制度も整えられました。これにより、全国のさまざまな物資が都に集まってくるしくみや、大きな工事などにも、労働させるしくみができたことになりました。」</p> <p>・「これらの品物（貴族や役人が給料としてもらった絹や布）は、農民が全国から税として運んできたものです。往復の費用は自分で出しました。とちゅうで、飢えのためになくなることもありました。」</p>	<p>・農民のつとめ（雑徭などのイラスト）</p> <p>・「農民の家」（平出遺跡の竪穴住居）</p> <p>・図「税を都へ運ぶ日数とおさめられたおもな産物」</p> <p>・イラスト「税を運ぶ農民たち」</p>
中学校 a社	<p><u>税をおさめる農民</u></p> <p>・「租は稲の収穫の約3%をおさめるもので、それほど重い負担ではありませんでしたが、調（特産物）と庸（布）の品は、自分たちで都まで運ばなければならず、その負担は大変重いものでした。兵士として国の守りにつく兵役や農民に強制的に種もみを貸しつけ、高い利子をとる制度もありました。こうした重すぎる庸・調や労役の負担からのがれるため、戸籍の性別や年齢をいつわることや、居住地から逃亡する家族も多くいました。そのため、耕作する人がいなくなり、あれはてた土地もふえていきました。」</p>	<p>・防人の歌</p> <p>・戸籍</p> <p>・調を都に運んだ漁師の話</p> <p>・図「都までかかる日数」</p> <p>・貴族の食事</p>
中学校 b社	<p><u>公民の義務</u></p> <p>「律令では、人々を、良民と少数の賤民に分けて差別し、賤民は売り買いされることもあった。」</p> <p>・「…税の負担は重く、<u>人々の生活は苦しかった</u>。故郷をすてて浮浪する者も少なくなかった。…」</p>	<p>・長屋王邸宅想像図</p> <p>・平出遺跡竪穴住居</p> <p>・木簡</p> <p>・貴族の食事と農民の食事</p> <p>・貧窮問答歌</p>
中学校 c社	<p><u>農民の負担</u></p> <p>「人々は、口分田の面積に応じて租を負担しましたが、特に成年男子には、都まで運んで納める調・庸などの税のほか、兵役の義務も課せられました。兵士の中には、防人として、九州北部の防衛に送られる者もありました。また、重い負担をのがれるために、逃亡する者も出てきました。」</p> <p><u>開墾のすすめ</u></p> <p>「鉄製の農具が広まり、稲の収穫が増えました。しかし、自然の災害で田が荒れることが多く、人口も増加したため、口分田が不足し</p>	<p>・写真「長屋王邸の復元模型と貴族の食事」</p> <p>・写真「農民の食事と家（平出遺跡）」</p> <p>・防人の歌</p> <p>・表「農民の負担」</p>

	てきました。」	
中学校・d社	<p><u>律令制と農民のくらし</u></p> <p>「税としては、租・庸・調があり、さらに雑徭という地方での労役や、防人などの兵役の義務などもあった。これらの負担は重く、逃亡する農民も多かった。そのいっぽうで、鉄製農具や栽培方法の改良によって作物の収穫量も増えはじめ、地方の有力者を中心に開墾がすすめられていった。」</p>	<p>・写真「農民の家(平出遺跡)」</p> <p>・「貧窮問答歌」</p>
中学校・e社	<p><u>税に苦しむ農民</u></p> <p>「この(租・庸・調や防人、運脚、仕丁、出挙などのさまざまな農民の負担)ため、農民のなかには、労役の現場から逃亡する者や、税をのがれるために口分田を捨ててほかの土地に移る浮浪人が現れた。」</p> <p><u>進む開墾</u></p> <p>「当時、農村では鉄製の農具が広まり、稲の収穫量も増えた。しかし、日照りや水害で不作になることも多く、耕されずに荒れてしまう田もあった。」</p>	<p>・図「調・庸を都まで運ぶために必要な日数」</p> <p>・写真「戸籍」</p> <p>・「貧窮問答歌」</p> <p>・写真「奈良時代の貴族の食事と庶民の食事」</p>
中学校・f社	<p>公地の支給を受けた農民は、租・調・庸という税の義務をおった。税はかなりきびしい内容のものであった。しかし、多数の農民に一樣に平等の田地をわけ与え、豪族の任意とされていたまちまちの税額を全国的に一律に定めたこの制度は、国民生活にとって公正の前進を意味していた。</p>	※資料なし
中学校・g社	<p><u>律令制と民衆のくらし</u></p> <p>民衆は、田の面積に応じた租と成年男子に課せられた調・庸を負担した。さらに雑徭とよばれる地方の労役と、兵役があった。兵役には都を警備する衛士や北九州の海辺を守る防人の役もあった。こうした重い税の負担にたえかねて、逃亡する農民が多かった。</p> <p>この時期の農村では、鉄製の農具がしだいに普及し、稲の収穫がふえた。しかし、日照りや洪水などで凶作になると、農民は翌年にまく種もみや食料にも不足した。国司は稲を貸しだし、5割の利息をとった。これを出挙という。のちには強制的に稲が貸しつけられた。この出挙も、農民には重い負担となった。</p>	<p>・写真「古代の戸籍」</p> <p>・「貧窮問答歌」</p>

※下線部は小見出し、~~~~~線は筆者による。

資料2 「奈良時代の農民の暮らしを再検討してみよう」の授業記録

- 教師 はい、えーと、それではですねー、今日は奈良時代の農民の暮らしを検討してみようということ。えー、みなさんこのあいだ奈良時代の農民がどんなものを納めさせられていたか、また、どんな負担をしていたか、勉強しましたね？覚えていますか？誰か発表してくれる人はいますか？
- はい、F. Yさん。
- F. Y 米と布と特産物を納めていました。
- 教師 そうでしたね。米と布と特産物を納めていました。米が租（「租」と板書）。布が庸（「庸」と板書）。特産物が調（「調」と板書）。で、租ってお米なんだけど、何kgくらいだっけ？
- 生徒 13kg…
- 教師 そう。（租のとなりに「13kg」と板書）調と庸として布を納めていたみたいなんだけど、あわせて何メートル？
- 生徒 15.4m…
- 教師 （笑）そう。（調・庸のとなりに「15.4m」と板書）手織りだったので大変だったと思いきや…。あと他にどんな負担をしていましたか？
- 生徒 （小さな声でささいている。）
- 教師 いいですよ、言っちゃって。
- 生徒 仕丁！
- 教師 そう、仕丁というのがあった。（「仕丁」と板書）
- 生徒 雑徭！
- 教師 ああ、雑徭！（「雑徭」と板書）
- 生徒 兵士！
- 教師 早いねえ、兵士！（「兵士」と板書）まだありました？
- 生徒 運脚。
- 教師 ああ、運脚ってありましたねえ。これを運ぶやつ。（「運脚」と板書）ちょっと確認しよう。運脚って、まあ調と庸を運ぶんだけど、どこへ運ぶんだっけ？
- 生徒 都。
- 教師 そう、都。当時の都はどこ？
- 生徒 奈良。
- 教師 うん、奈良だねえ。奈良まで何日かかるって？
- 生徒 行きに34日、…
- 教師 うん。（「31日」と板書。間違いを生徒に指摘され「34日」と訂正）じゃ帰りは？
- 生徒 17日（←このあたりから生徒の声に元気が出てきたように聞こえる。）
- 教師 なんで早い？
- 生徒 荷物ないから。
- 教師 えー、雑徭。雑徭って国司のもとで働かされたんだけど、これ何日？
- 生徒 60日。
- 教師 （「60日」と板書。）一応60日以内なんだけどね。多くの場合60日働かされたみたいです。仕丁ってどこで働くんだっけ。
- 生徒 都。
- 教師 期間は？
- 生徒 1年。
- 教師 兵役は三つに分けましたね。
- 生徒 軍団。衛士。防人
- 教師 楽な順ですね。軍団は地元で数十日。衛士は？
- 生徒 都。
- 教師 期間は？
- 生徒 1年。
- 教師 （「奈良で1年」と）防人は？
- 生徒 北九州で三年。
- 教師 うん。北九州で三年。三年経てば帰ってこられるんだっけ？

生徒 帰ってこれない。
教師 どうして？
生徒 死んじゃう。
教師 ああ、死んじゃう。他には？
生徒 交代が来ない。
生徒 金がなくて帰れない。
教師 「農民の負担」と板書）これだけ見ても大変だね。まあ同時に全部負担したわけではないけれども。で、それを裏付ける資料はこれだと。（ホワイトボードに掲示した資料「貧窮問答歌」を指し示す）

貧窮問答歌（山上憶良の歌の一部の要約）

わたもはいらぬ袖なしの 海草みたいなぼろきれを とにかく肩にひっかけて 低く
かしいだ小屋の中 地面にじかにわらをしき 親はあちらに子はこちら とほうにく
れて沈みこむ かまどはずっと火の気なく かまには蜘蛛の巣がかかる ごはんとく
こと忘れはて のどをしぼって細い声 そんなところへ里長が むちをたずさえやっ
てきて なんにもないのに税出せと 大声だしてわめいてる つらい悲しい生きる道
（「万葉集」より）

えー山上憶良という人の歌で貧窮問答歌といいます。えー何という本に書いてあるかというと、奈良時代につくられた歌集で、日本で一番古いと言われている万葉集という歌集です。この歌は読むと、途中でつらくなってきてしまうような歌です。最後まで読めないかもしれない、泣いちゃって。じゃあ、ちょっと読んでみます。えー、「わたもはいらぬ袖なしの 海草みたいなぼろきれを」着るものがもうぼろぼろなんです。ぼろきれで海草のようだと。「とにかく肩にひっかけて 低くかしいだ小屋の中」この中の何人かの人は知っていると思うけれど、奈良時代の農民ってどんな家に住んでたの？（だれも挙手しない）確実に知っている人に聞いていいですか。A. T君。A. T君、「歴史の流れを調べよう」で調べたよね？

A. T 竪穴住居。

教師 はい、竪穴住居なんですよ。（「竪穴住居」と板書）竪穴住居に住んでいた…。みなさん、竪穴住居のイメージどうですか？…縄文時代ってどんな家に住んでいたの？

生徒 竪穴住居。

教師 竪穴住居か。奈良時代の農民も竪穴住居。竪穴住居、どうなんですかねえ。竪穴住居ですから、当然地面で生活していました。「地面にじかにわらをしき 親はあちらに子はこちら とほうにくれて沈みこむ」想像してください。地面にわらをしいて、向こうの方に親がいて、こっちの方に子どもがいて、みんなおなかをかかえているわけです。なんでおなかをかかえているかというと、「かまどはずっと火の気なく かまには蜘蛛の巣がかかる ごはんとくこと忘れはて のどをしぼって細い声」食べ物ないんだね。子どもがいうわけ。『お父ちゃん、ごは～ん』『ないんだよ…』というかんじですね。「そんなところへ里長が むちをたずさえやっけてきて なんにもないのに税出せと 大声だしてわめいてる つらい悲しい生きる道」奈良時代の農民、どうですか。N. Nさんどう思います？

N. N 苦しい…。

教師 苦しい。そうだな。僕もそう思ったんです。ところが、3組の人の文を見たときに一人だけプラス思考の人がいた。さっきも指しちやっただけどA. T君。（一同笑）A. T君、僕が渡したプリント（「歴史の流れを調べよう」のワークシート）あるでしょ。その「作品を作り終えて」のところ読んでみて。

A. T もってきてない…

教師 もってきてない！じゃ、先生読もう。コピーとってあるから。今からおよそ1300年前の奈良時代、600年前の室町時代、250年前の江戸時代を調べて思った。すごく大変なくらしをしていた。何を調べたんだっけ？

A. T 文化…

教師 衣食住とか調べてましたね。その次なんですよ。よく聞いてください。でも、その時代ならで

はの楽しいこともあっただろう。庶民の文化というものはそういうものだ。(一同笑) A. T君、聞きたいんですけど、「貧窮問答歌」のどこに楽しいところがあるんですか。(一同笑い)

A. T うーん・・・

教師 A. T君、正直なので、さっき紹介したレポートの奈良時代のところにこんな風を書いています。「この時代は貧しかったので、たぶん僕は死んでいる」(一同笑い)しかし、A. T君のことに僕は励まされまして、調べ始めたんですね。最初にこれ。(掲示資料「貧窮問答歌」のところに移動)今日はこんなのを用意しました。(怪マークを手にする)これ使うんです。

生徒 先生に貼る～

教師 先生に貼りません。ここ(「貧窮問答歌」)に貼るんです。この貧窮問答歌、どうも怪しい。二つあるから2カ所怪しいんですけど。(資料「貧窮問答歌」の「作者 山上憶良」の部分に怪マークを貼る)貧窮問答歌は山上憶良の歌ではない可能性がある。どういうことかといいますと、この歌に非常によく似た詩、というよりもほとんど同じ歌がですね、唐にあるんです。山上憶良という人は遣唐使となって唐にわたっています。それから、この詩が作られたころ、北九州の国司だったんですね。北九州といえば、中国の文化の玄関口です。彼がこの詩に接した可能性は十分にあります。つまり、唐の詩を和訳したにすぎないのではないか、ということです。山上憶良は奈良時代の農民の姿を見てこれをつくったのではないのではないか、ということです。もう一つ怪しいところはここです。(資料「貧窮問答歌」の「親はこちらに子はこちら」の部分に怪マークを貼る)親はあちらに子はこちら。これが怪しい。なぜかという、当時の日本は、結婚しますね。子どもが生まれますよね。そうすると、独立して家を構えるんです。違いますよね。(「貧窮問答歌」を指さす。)親はあちらに子はこちらということは、三世代同居ですよ。当時の日本の家族のスタイルと違います。さっき、唐の詩の和訳だと言ったけれども、唐はどうだったかという、三世代同居なんです。何が言いたいかわかりますか?「貧窮問答歌」は奈良時代の農民の歌を歌ったものではないんですよ。あくつ君の言っていることが現実味を帯びてきました。農民には何か楽しみがあったのかもしれませんが。そこで、今日はこういうことにしてみたいんです。(板書)奈良時代の農民のくらしを再検討する必要があるだろう、ということで勉強してみたいと思います。(ワークシートの配布)

じゃあ、再び皆さんが一年生の最初につくったレポートを利用してみたいと思うんですけど、・・・奈良時代の農民のくらしについてレポートしてくれた人がいて・・・えーと、W. Rさん、えっ持ってきてない?みんな持ってきてないんだなあ。じゃあ、えーと、S. Nさん、持ってきた? S. Nさんさあ、奈良時代の貴族と農民のくらしの比較をしてますよねえ。食べ物について発表してくれるかな?

S. N ……

教師 S. Nさん、ちょっと待って。太鼓の音がじゃまで聞こえないんだよ。

S. N 貴族の食事が、魚と白米、みそ、スープ、果物、寒天、あえもの、そ(教師板書)

教師 「そ」って何

S. N ヨーグルトみたいな

教師 農民は?

S. N 塩(ざわめき) ワラビ付け 玄米 終わり(教師板書)

教師 終わり!? 終わりですか! えー、同じようなのが資料集に載っているんだけど、資料集37ページです。(生徒は資料集を見ている) えー、2組のM. Mさんが貴族の食事と農民の食事のカロリー計算をしてくれたんだけど、これ、夕ご飯だと思うんだけど、貴族の方が1245キロカロリー。かなりのものですね。農民、いくつだと思えます? 407キロカロリーです。407キロカロリーは3倍しても1200キロカロリーです。僕が毎日2000キロカロリーくらい食べてますね。だからこんなんだけど。(笑い)

もうちょっと食べ物について調べようと思って、こんなものを見つけました。(プラズマディスプレイで資料「桃の種」提示) 見えます? Y. Yさん見えます? はい、これなあんだ? これは上三川町にある多功南原遺跡にある竪穴住居から出てきたんです。これ見たことある人がこのクラ

スに一人いるんですよ。

生徒 A. T君！

教師 A. T君？A. T君じゃないけど、「あ」のつく人です。これ（資料右側）見たことない？

生徒 ウサギのふん！

教師 えっウサギのふん？ウサギのふんじゃないよ。

惜しい！

生徒 惜しい？

教師 ううん、惜しくはない。これ（資料左側）は分かるでしょ。

生徒 梅干し。

教師 梅干し。惜しい！僕も最初梅干しかと思ったん **多功南原遺跡から出土した桃の種と大豆**ですけど、梅干しじゃない。

生徒 食べ物？

教師 食べ物です。

生徒 くるみ！

教師 ああ、くるみ。もうすこし小さいものです。これ付箋紙ですから。

生徒 ドングリ。

教師 ドングリ！（一同笑い）でかすぎるでしょ。それじゃ見たことある人に聞いてみましょう。A. Mさん。A. Mさんこれ見たことありますよね？

A. M ええ、微妙に…

教師 微妙に何でしょう。

A. M 果物の種。

教師 何の種だと思います？

A. M 分かりません。

教師 先生の好きな果物ナンバー1です。

生徒 桃！

教師 そう！よく分かりましたね。皆さんのプリントの「判断材料1」のところに記入してください。
桃の種。（生徒、ワークシートに記入）ちなみに隣にあるのは何だか分かりますか？

生徒 サクラランボの種。

教師 ああ、サクラランボの種。違います。皆さんが毎日のように食べるものの原料です。

生徒 コーンフレーク。

教師 コーンフレーク。いえ、違います。納豆だとしたら原料は？

生徒 大豆！

教師 そう、これ大豆です。 あれ、ちょっと待てと。さっきの農民の食べ物の中に桃はないよね。
塩、ワラビづけ、玄米です。ここに、桃と大豆製品が入ると…H. J君、どうなる？

H. J カロリーが増えそう。

教師 カロリーアップ（「カロリー↑」と板書）。N. Sさん、N. Sさんはイメージ変わった？

N. S 変わった。

教師 どう変わった？

N. S ごはん食べていないって書いてあったのに、ごはん食べてるし…

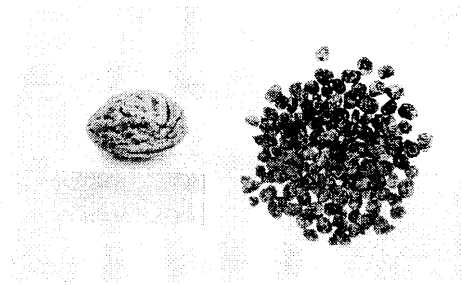
教師 うん、分かった。それじゃ、この桃の種と大豆を見て、これ（貧窮問答歌）を読んだときと比較して、農民のくらしのイメージはアップしたかな？ダウンしたかな？アップしたら上矢印をダウンしたら下矢印を四角の中に書いて、その下に理由を書いておきましょう。（生徒、それぞれ活動。教師は机間指導。）

教師 誰か発表してくれるかな？あっI. R君

I. R 食べ物に困っていたと思っていただけ、桃とかも食べていたんだったら、あまり食べ物に困っていなかったのかも。（教師板書）

教師 はい、N. K君

N. K 大豆とかは、今、健康食品としても注目されていて、栄養価も高い。



教師 うん（板書しながら）大豆の栄養。…他にありますか。…僕からいっちゃっていいですか？

A. R 君。

A. R 貴族だけにいい思いはさせないぞと農民は思ってたかも…（教師板書）

教師 H. J 君

H. J 桃や大豆を植える土地があった。

教師 桃や大豆はどこで作るの？

H. J 畑。

教師 桃や大豆を作る畑が農村にはあった…

S. Y マイナス思考に考えてみた！

教師 おっ、マイナス思考に考えた！はい、S. Y 君。

S. Y 自分たちで食べていたんじゃないく、貴族につくらされて、失敗して腐りかけたやつだけを自分たちでたべた。

教師 なるほど、なるほど。マイナス思考ですね。（一同笑い）いいですよ。これは貴族にだまされてつくらされていた。（板書）そして、いたんだ腐りかけていた桃だけをたべ、そして腹をこわすと。（笑い）あっこれは言っていないね。調子が出てきたなあ。他には？（挙手がない）それじゃ違う発想の人の意見を。M. H 君。

M. H 桃の種は、また桃になるから、そこそこ栄養はとれるのではないか。

教師 ほう。桃の種は蒔くのか。（「桃の種からまた桃」と板書）この二人（板書のH. JとM. Hの部分を示しながら）の意見は、つまりこういうことだ。桃は野生のものをとってきたんじゃないく、栽培してたんじゃないの!?!っていうこと。そして、S. Y 君は、栽培していたんじゃないく、栽培させられていたんじゃないのと。Y. N さんは？

Y. N 桃とかを食べていたんだったら、貧窮問答歌よりよくらしをしていたんじゃないかな？

教師 うん、貧窮問答歌よりいいくらし。（板書）他にいますか？
よし、じゃ次いってみましょう。桃が発見された竪穴住居からこんなものも見つかっています。（プラズマディスプレイで「櫛」を提示）これ何だか分かります？

生徒 櫛

教師 はい、そのとおりですね。（「櫛」と板書）櫛、何に使うの？
ああそれは小学生に聞く質問か。髪の毛とかすんだよね。髪、とかしてたんだあ…これ、どうなんですかねえ。ここからどんな暮らしぶりが想像できます？K. A さん、どう？

K. A 見た目に気がつかっていた（「見た目に気がつかう」と板書）

教師 T. S 君はどう？

T. S ファッションにこだわっていた。

教師 ファッションにこだわっていた？ちょっと待って！（「貧窮問答歌」当該部分を指さしながら）海草みたいなぼろ切れをま
とって、ファッションにこだわっていた！（一同笑い）
はい、Y. Y さん。

Y. Y 「貧窮問答歌」には海草みたいなぼろ切れと書いてあるけど、櫛を使っていたってことは服装もちゃんとしていた。

教師 ああ、（「服も海草ではない」と板書）

生徒 海草の服じゃなく、海草みたいな服…

教師 ああ、「服も海草ではない」じゃなくて「海草みたいなじゃない」（板書訂正）他にありますか？
はいH. J 君。

H. J 余裕があった。

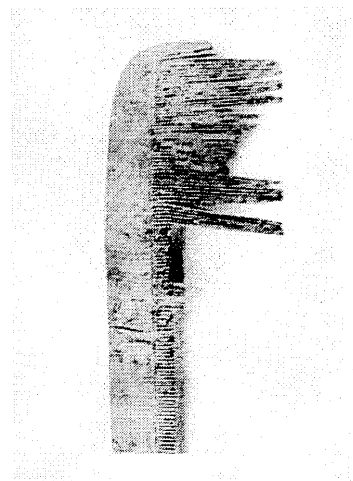
教師 ああ、余裕があった。それは時間的余裕ですか？

H. J 金銭的余裕。

教師 分かりますか？むずかしいけど「経済的な余裕」で。他に。はいI. S 君

I. S 低級なおしゃれをしていた。

教師 低級なおしゃれ…。付け加えてきいてみたいんですけど、じゃ高級なおしゃれってどんなので



多功南原遺跡から出土した櫛

すか？

I. S 貴族のおしゃれ。

教師 ああ、貴族のおしゃれ！資料集の35ページ見てみよう。このイメージですか？

I. S はい。

教師 こんなおしゃれはできなかったけど、低級なおしゃれはできた、と。はい、K. K君。

K. K マイナス思考なんですけど、だれかから恵んでもらった。

教師 貴族が恵んだ、あるいは落とし物、みたいな。(笑い) 付け加えて聞いていいですか？貴族はどうして恵んだんですか？

K. K もういらなくなったりとか、ゴミになったものとか・・・。

教師 ああ、なるほど。貴族にとってはゴミ。

S. Y 米を多く納めたご褒美とか・・・

教師 なるほど、これは米を多く納めたご褒美！おつり！おまけ!?それが貴族にとってはもうゴミで・・・(笑い) (「貴族が与えた」と板書) はい、S. Y君。

S. Y マイナスなんですけど、それは櫛じゃなくて、布を作るときに使う道具。

教師 ああ、なるほど。これは櫛ではなくて、これ(黒板の「庸」の部分の指し)をつくる道具なの。(「布を作る際の道具」と板書) まだあるかな？ それでは、自分の考えをプリントの二番のところに書いてみよう。(生徒は個人作業)

それではもう一つ。これ、ああ桃の種と櫛は地面の中から出てきたものだよ。弥生時代も縄文時代もそういうので勉強してきたよね。今度は、奈良時代。日本にも記録が残っています。奈良時代の記録。そこで必死に探しました。農民の記録書いてないかなあって。なかなか無いんですね。でも一つ見つけてきました。(ホワイトボードに資料『常陸国風土記』を掲示) これは、ここに書いてあるけど常陸の国風土記っていう本の一部だけど、常陸の国ってどこかっていうと？

箱根から東にある諸国の男女は、春の花が咲く時期、秋の木の葉が色づく時期になると、手をとりあって連れだち、食べ物や飲み物を持って、馬に乗ったり歩いたりして筑波山に登り、一日中楽しく遊び過ごす。(「常陸国風土記」より)

生徒 茨城。

教師 そう、お隣の茨城県。風土記っていうのは地理の本。だから、これは茨城県の地理の本。その中にこんなふう書いてあります。箱根から東にある諸国の男女は、下野もそうだよ。春の花が咲く時期、秋の木の葉が色づく時期になると、手をとりあって連れだち、食べ物や飲み物を持って、馬に乗ったり歩いたりして筑波山に登り、一日中楽しく遊び過ごす。(ざわつく。)

生徒 ピクニックだ

教師 ピクニックだよ。それじゃ自分の考えを三番のところに書いてみよう。(生徒は個人作業)

教師 農民はいつピクニックしていたのかな？

生徒 春と秋。

生徒 花見と紅葉。

教師 なるほど、花見と紅葉。これ、農民だからね。S. Tさん、どうですか？

S. T 反対・・・。

教師 これ(『常陸国風土記』) 読んだときどう思った？

S. T 全然違う・・・。

教師 (「貧窮問答歌と全然違う」と板書)

教師 どうしても聞いてみたい人がいるんですけど。S. Y君

S. Y ピクニックじゃなくて、山に入って、何か探してくるか、防人に出かける前に最後の思い出づくり。

教師 ああ、なるほど。最後の思い出。これ(板書の防人を指さしながら)にでかける前の。(「防人に出かける前のお別れ」と板書) はい、N. K君。

N. K 夏と冬に人がたくさん死ぬから、春と秋は比較的豊かだったのかも。

教師 夏と冬にたくさん人が死ぬからこの時期は比較的豊かだったの？

N. K 死んでしまった人から盗んでいた。

教師 盗んでいたのか。(「盗んで豊かに」と板書) はい, F. Aさん。

F. A 別に全員が豊かだったわけじゃないだろうし, そんな農民ばかりじゃない。

教師 ああ, そんな農民ばかりじゃない。なるほど。これ(春と秋に筑波山に行く農民)は一部だと。なるほどねえ。そりゃ, そうですよ。栃木県中の人が行ったらどうなるか考えてください。筑波山。筑波山行ったことありますか? 筑波山超満員になってしまいますよねえ。(「そんな農民ばかりではない」と板書) はい, S. Y君。

S. Y 防人から帰ってきた人のお祝い。

教師 ああ, そうか, そうか。お別れだけでなく, お祝いだったということね。はい, K. Aさん。

K. A もしかしたらなんですけど, 貴族が自分たちばかり楽しんでいたと思われるってイヤなのでこんな記録を書いた。

教師 ああ, 風土記は貴族が書いているんだから, 農民にも少し思いしているように書いておかないとまずい, ということですね。(「偽りの記録」と板書) はい, S. T君。

S. T 税を払えない人が筑波山に行って, 最後みんな死んじゃったんじゃないか。

教師 死んじゃったのか……。はい, N. K君。

N. K S. Y君とK. Aさんの意見に反対なんですけど, まず, 貴族の記録を農民が見られたわけないし, 農民は文字も読めなかったと思うから, 絵ででも描かない限り大丈夫だったと思うし, 防人はほとんど帰ってこれなかったわけだし, お祝いでもないと思う。

教師 なるほど。反対意見だね。はい, I. R君。

I. R N. K君の考えに賛成なんですけど, この記録は農民が見るんじゃなく, 次の時代の人が見るためのものだから, 別に農民に不利なことが書いてあっても問題ないと思います。

教師 なるほど。僕は, この史料(「常陸国風土記」)が農民にとって一番面白い話題だと思ったんですけど, 皆さんは, まだ, 奈良時代の農民はこっち(「貧窮問答歌」)のイメージの方が強いみたいだね。悲観的。実はもう一つ栃木県に関する資料があったんだけど, 続日本紀という書物の772年の記録に, 772年の10月です。772年の10月に, 870人が逃亡したと書いてあるんです。逃亡ということは家出です。家出するっていいことある? そう, これ(律令制度下での負担)を納めなくて済みます。870人が逃亡したということを皆さん, どう考えますか。これをこの次までにワークシートに書いてきましょう。それでは, これで授業を終わりにします。